

弓浜絣（ゆみはまかすり）

弓浜絣は、絣（かすり）という伝統的な染色と機織りの各地域の技法の中でも最も有名なものの1つです。典型的ものは深い藍色の背景に、白い絵画的な模様が描かれています。綿糸は、それが織られるときに対照的な絵柄が形成されることを確認するために慎重に計算した後、織る前に染色されます。元を辿ればアジア大陸のイカットという古い技法に由来するものですが、米子・弓ヶ浜地方で絣が普及したのは、18世紀後半に当地で綿の栽培が盛んになり、藍染の染料が大量に手に入るようになったことによります。当初はシンプルな幾何学模様が用いられていましたが、19世紀初頭までには、地方の農村部の家庭の女性たちが、絵柄のような絣を織るようになりました。大胆な文様としては、縁起物をモチーフとしたものや、もしくは縁起の良いイベントを祝う場面をモチーフとしたものが多く用いられます。最高級の由美浜絣は、緻密な細工と豪華な装飾が施されていますが、農村のルーツを感じさせる簡素で素朴な要素も残しています。